

公民館のチカラ～未来につなぐ、未来をつくる公民館～

第 4 6 回全国公民館研究大会、

第 6 4 回関東甲信越静公民館研究大会新潟大会の報告について

第 1 日目

(1) アトラクション：高田馨女（ごぜ）唄演奏

(2) 表彰式等

(3) 基調講演

千葉大学名誉教授 長澤 成次氏

1946 年の文部次官通牒から寺中構想など、初期公民館が果たしてきた役割などについての説明。初期の公民館構想では公民教育こそが、民主主義再建の原動力であり、公民館は町村振興の底力を生み出す場、地域交流の場、産業振興の場であった。昨今では、指定管理者制度の導入や市長部局に移管される特定社会教育機関が徐々に増えており、講師としては「公民館主事」の設置を要望しているという主旨の説明であった。

(4) トークセッション「私からつくる私たちの未来の公民館」

NPO 法人みらいず works 角野氏、新潟市地域教育コーディネータの司山（しやま）氏と長澤氏によるトークセッション。

司山氏からは、外国語会話の公民館団体と高校生との連携について、報告があった。インバウンド用の地図を連携して作成したとのこと。その後、3年生から2年生へと伝わり、継続的な連携が図られていることを報告。

角野氏からは、静岡県焼津市で、自分達で民間公民館を立ち上げたことの報告があった。設立後2か月ということで、具体的な成果に関する説明はなかったが、地域、企業、学校、文化、まちづくりなどと連携していく主旨の説明であった。喫緊の課題としては、資金調達ということで、当面の間は企業からの寄附で法人運営を行っていきたいということであった。

また、パネリストへの質問を、Google フォームを活用して、リアルタイムで会場からの意見を募集するなど、ICT を活用した取組みを行っていた。

第2日目

「学校と公民館」をテーマにした分科会に参加

(1) 宇都宮市清原生涯学習センター

新たに運用を開始した路面電車（ライトライン）を基軸としたまちづくり、コンパクトシティを進めている。宇都宮市の魅力を伝え、50年、100年先も選ばれる魅力あるまちを目指すため、宇都宮市清原地区の魅力再発見を目的とした講座を実施した。

このうち、清原地区の「伝説、民話を聞こう」では、小学生が語り部による物語を聞き、絵を描き、プロジェクションマッピングで上映するなど実施。また、大学生が講師となり、清原地区の魅力をSNSで発信するなどの講座を実施した。

(2) 和光市中央公民館

地域学校協働本部を公民館に設置し、学校との連携を進めている。地域学校協働本部では公民館職員がコーディネータとなり、学校のニーズを聞き取り、公民館団体が協力できることなどを考え、地域との連絡調整を行っている。学校教育と社会教育の領域は、相容れない部分があり、両者にとってメリットがないと進みにくい現状がある。3年目を迎え、徐々に連携が深まっている。

(3) 上越教育大学 辻村 准教授による講評

地域と学校との連携が求められているが、現状、進んでいない現状がある。双方が忙しく、連携するメリットが見えないと進んでいかない。まずは、学校教育と社会教育の分野の違いを知る必要があるのではないか。協働することは目的ではなく、手段である。学校教育では扱えない分野を補完することが社会教育の目的の一つではないか。

2市の事例がどこの自治体にも当てはまるものではない。一方からの押し付けでは連携は進まない。拙速に進める必要はない。各市の状況とタイミングを見て、それぞれに相応しい連携の方法を見つけてはどうか、という講評であった。